セキュアアクセスリソースコネクタVMのソースパブリックIPの特定

内容

問題

リソースコネクタVMを使用してCisco Secure Access(CSA)の導入を管理する場合、CSAのグラフィカルユーザインターフェイス(GUI)には、リソースコネクタVMがCisco Secure Accessサービスに接続するときに使用するソースグローバル（出力）IPアドレスを表示する組み込み方式はありません。この情報は、移行後にトラフィックがファイアウォールまたはその他のネットワークインフラストラクチャコンポーネントを通して正しくルーティングされていることの確認など、ネットワークアーキテクチャの変更を確認するために必要になることがよくあります。

課題が生じるのは、管理者がResource Connector VMが更新されたネットワークパスを介して正常に通信していることを検証する必要がある場合（Azure Firewallまたはその他のセキュリティアプライアンスを介してトラフィックをルーティングする場合など）、およびCSAへの発信接続に使用されている実際のパブリックIPアドレスを確認する必要がある場合です。

環境

- Cisco Secure Access(CSA)with Zero Trust Architecture(ZTA)
- クラウド環境（Azureなど）に配置されたリソースコネクタVM
- ファイアウォールまたはNATデバイスを含むネットワークアーキテクチャ
- ネットワーク検証のために出力IPアドレスを確認する必要がある

解決方法

CSA GUIにはリソースコネクタVMのグローバルIPアドレスを表示する方法がなく、またリソース

コネクタVM環境で使用できるLinuxコマンドは限られているため、推奨されるアプローチは、リソースコネクタVM自体からnslookupコマンドを使用することです。

ステップ1：リソースコネクタVMにアクセスします。

標準のアクセス方法（SSH、コンソールなど）を使用して、リソースコネクタVMに接続します。

ステップ2:nslookupコマンドの実行

パブリックIPアドレスを照会するには、次のコマンドを実行します。

```
nslookup myip.opendns.com 208.67.222.222
```

ステップ3：出力の解釈

このコマンドは、次の形式の出力を返します。

```
Name: myip.opendns.com
Address: xxx.xxx.xxx.xxx
```

出力のAddressフィールドは、リソースコネクタVMがCisco Secure Accessなどの外部サービスと通信するために使用しているグローバルIPアドレスを表します。

特記事項

リソースコネクタVM環境では、実行可能なLinuxコマンドが制限されます。サポートされているコマンドの完全なリストについては、https://securitydocs.cisco.com/docs/csa/olh/120798.ditaにあるCisco Secure Accessのマニュアルを参照してください。

この方法は、CSA管理インターフェイスへのアクセスを必要とせずに出力IPアドレスを判別する信頼性の高い方法を提供し、ネットワークの検証およびトラブルシューティングのシナリオに役立ちます。

原因

Cisco Secure Access GUIは、詳細なネットワーク接続情報ではなく、ポリシー管理、ユーザアクセスコントロール、およびセキュリティポスチャに重点を置くように設計されています。リソースコネクタのVM出力IPアドレスは、ネットワークレベルの詳細と見なされます。通常、この詳細は、セキュリティサービスインターフェイスではなく、ネットワークインフラストラクチャツールを使用して管理および監視されます。

関連コンテンツ

- Cisco Secure Access Resource Connectorコマンドリファレンス
- シスコのテクニカルサポートとダウンロード

翻訳について
シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。